

風はどうして吹く？

かんたんにいえば、風というのは空気の移動です。わたしたちの住む地球は空気におおわれています。その空気は目に見えませんが、温度が上がるとふくらみ、反対に温度が下がると、ちぢむという性質をもっています。

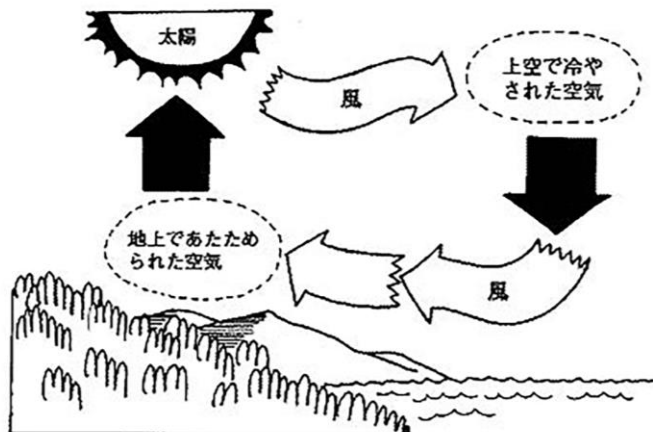
太陽に照らされてあたためられふくらんだ空気は、軽くなって上昇します。反対に空の上のほうで冷やされてちぢんだ空気は、重くなって下降するのです。そうすると、上昇した空気のもとには、まわりから別の空気が流れこんできます。また、下降した空気のもとにも、まわりから別の空気が流れこんでくるのです。

このような空気の動きが、風として感じられるというわけです。

おうちの方へ

実際には、地球上の空気はもっと複雑な動きをしていますが、基本的にはこのように覚えておけばいいでしょう。

昔から日本人は、風の変化で季節の変化を感じていた。風の運ぶ適度な湿度が身体に良い。洗濯物は太陽の光・温度と吹く風が水蒸気を吹き飛ばし、乾かしてくれる。



季節の風 見えないけど存在する風！
人間の生活に様々な影響を与えている。

春は「そよ風」、「春一番」(立春をすぎて吹く最初の強い風)

夏の「熱風」、「南風」

秋の「秋風」、「台風」

冬の「寒風」、「木枯らし」、「からっ風」

人物を表現する際に風の字が入る言葉が多い
風格、風貌、風姿、風采……

時代の流れは「風潮」という。
かって原因不明の病は「中風」と言っていた。

風による花粉の交配は大きな働きとなる。
又、春先の松・杉などの花粉は季節風に乗れり、都会の人々を悩ます。

風と風邪

近畿医療専門学校のプロログ
2015年2月25日

普段何気なく使っているこの「風邪」という言葉。実は東洋医学がルーツだと知っていましたか？

その言葉の本来の意味と、風邪に対する東洋医学の考え方や治療法などを紹介したいと思います。

東洋医学における「風邪」の原因は『環境』と『人』

現代医学における風邪の原因はウイルスへの感染です。

しかし、東洋医学が生まれた遙か昔の中国の人達は、当然ながらウイルスや細菌などの微生物の存在を知りませんでした。

それでも、天気や季節がどのような時にカゼを引くのか、人の体がどのように弱っている時に風邪を引くのか、ということを経験を重ねて観察や経験によって昔の人は知っていたのでした。

東洋医学では、風邪を引く原因を病原菌やウイルスにではなく、人をとり巻く外的環境や、風邪を引く人そのものに求めたのです。

まず人が風邪を引いたり体調を崩したりする外的な要因を、東洋医学では「邪(ジャ)」と呼びます。そして、邪には六種類あり、「風・火・暑・湿・燥・寒」となり、これらをまとめて「六淫(リクイン)」と呼ぶ。六淫は『風などの自然現象、湿気や乾燥、寒冷刺激などの温度変化』のことを指す。

『風邪(かぜ)』の語源は『風邪(ふうじゃ)』

体調を悪くする環境や外的刺激の中でも、特に自然界に吹く風が体に与える悪影響を指して言う言葉だったのです。『風(ふう)』は、体表の熱を奪い皮膚や粘膜を乾燥させる

「風」で「風邪を引く」と聞いても、すぐにはピンとこないと思います。しかし、想像してください。体に風が当たり続けると、徐々に体表の熱を奪い、皮膚や粘膜が乾燥する。皮膚や粘膜が乾燥したら次に何が起こるか。体内にウイルスや細菌が侵入しやすくなりますよね。

免疫力が下がってしまい、容易に細菌やウイルスの侵入を許すようになってしまいます。